

会議録

日時	令和4年6月14日(火) 14:00~16:20
場所	総合文化センター 視聴覚室
件名	令和4年度 第2回社会教育委員会定例会
出席者	社会教育委員：小栗正敏、山田秀樹、湯原定雄、渡邊啓介、足立亘、岩島留美子、安藤裕子、有賀秀雄、伊藤孝一、浅沼克郎、遠藤晶子 市関係者：山田幸男(教育長)、小栗茂(中央公民館長) 事務局：藤井志保(社会教育課課長補佐)、川畑篤仁(同主査)
議題	<p>【令和4年度研究テーマ】 「生涯学習推進のための駅北複合施設のあり方」</p> <p>1 あいさつ</p> <p>代表 先日一宮市の図書館運営に携わる方からお話を聞く機会があった。図書館運営を通してまちづくりを考えるという内容で大変素晴らしい内容であった。今年度教育委員会からの諮問の「生涯学習推進」と「駅北複合施設のあり方」に多少なりとも反映できないかと思いつつ聞いていた。本日は教育長にも出席いただいている。社会教育委員会の協議に関心を持っていただいて大変ありがたい。</p> <p>教育長 昨年度から岡山県高梁市などへ図書館施設の先進地視察をおこなった。今年度は教育長会議へ行った際に山口県周南市の図書館を訪れた。高梁市や周南市の図書館は、瑞浪市が予定しているように鉄道駅の一部となって建設されている。高校生が三々五々集まってコーヒーを飲みながら本を読む姿がたくさんみられた。図書館の中も開放的な空間になっていて、くつろいで本が読めるような施設であった。瑞浪市の新施設では「滞在型・サロン型」施設を目指している。個人的には、静かに本を読んだり、勉強したりする場所としての機能や資料を所蔵閲覧する機能をどのように残していくのか、あるいは現在の社会教育課事務室がどこに移転するのか、気がかりになっている。高梁市や周南市は、従来の市民図書館は別の場所にあるということで、図書館移転予定の瑞浪市とは少し形態が異なる。先行きが見えない部分もあるので、よりよい施設を作っていくための皆さんのご意見をいただきたい。今後もできるだけ会議に出席して皆さんと一緒に考えていきたい。</p> <p>2 協議 <協議内容></p> <p>①公民館が果たしてきた役割と生涯学習推進に向けた今後の在り方 ②図書館の利用促進に向けた今後の在り方 (KJ法によるグループ討議)</p> <p>協議内容① A(小栗委員、足立委員、渡邊委員) B(有賀委員、湯原委員) グループ A</p> <p>【成果】</p>

- ・現在の総合文化センターは豊かな自然に恵まれた立地と、図書館と中央公民館が併設された複合施設で利便性の高い施設である。
- ・学校の授業にもよく利用されている。
- ・中央公民館として地区公民館をまとめる立場として機能している。
- ・公民館でありながら、文化ホールや展示室といった施設の管理も担っている。建設以来30年以上の歴史があり、一定の利用実績が上げられている。

【課題】

- ・地区公民館は地域づくり、人づくりの拠点になっているが、中央公民館は守備範囲が広いがゆえに、地区公民館のように気軽に地域の人が集まる場所にはなっていない。
- ・約 800 席の文化ホールをいつも満席にするような催しを行うには、ある程度の予算が必要になる。
(※市の計画では収容人数400人のホールを計画している。)
- ・展示室などの稼働率と、維持管理費のつり合いが課題。
- ・既設の地域交流センターときわでもすでに多くの催し物を行っている。市民のニーズを把握して、生涯学習に特化した講座等をいかに発信していくかが重要。

グループ B

【成果】

- ・市全体の学校、子ども達の学びの場になっている。文化ホール等の利用を通じて、芸術に触れる体験の場を提供する役割を果たしてきた。
- ・各サークルの活動や発表の場を提供している。市民の自主的な文化活動を支えてきた。

【課題】

- ・市全体の公民館という役割は担っているけれども、瑞浪・土岐・明世地区の公民館としての役割は果たしているのかという課題がある。人々の交流の場、憩いの場を提供しているのかどうか。コミュニティスクールが各地区でスタートし、公民館に求められる役割を明確にしていくことが必要。

協議内容② A(安藤委員、浅沼委員、岩島委員) B(遠藤委員、山田委員、伊藤委員)

グループ A

【成果】

- ・蔵書が増加している。児童の利用冊数が多い。
- ・夏休みの利用が多い。図書館がワークショップや夜の読書会などのイベントを企画している結果。

【課題】

- ・貸出冊数は多いが、同じ人が何度も借りているような状況。
- ・平日の閉館時間が早いので、仕事をしている方や学生は利用しにくい。
- ・図書館をあまり利用しない人が、借りたくなるような本を入れるような検討はしているか。
- ・蔵書管理や貸出業務のデジタル化が進めば、図書館のイベントの企画に時間を割けるのではないか。
- ・施設への交通をどのように確保していくか。

グループ B

【成果】

- ・年少から小学生の年代の利用人数が多い。学習等に役立てられている。図書館と学校が連携して催しを開催している結果だと思う。

【課題】

- ・図書館を利用する年代に、20代から50代までの働く世代が少ない。駅利用者が利用しやすいような施設を考える。
- ・子育て世代の支援という側面では課題がある。子育てについての書籍が充実していて、子どもの親に利用されているかという検証材料が無い。
- ・各地区公民館の講座は活発に行われているので、図書館も中央公民館を使用した講座を積極的に行い、図書館へ人々を結び付けられるような取り組みをしてはどうか（講座に係る図書を紹介するなど）。
- ・図書の取り寄せサービスを行うのはどうか。
- ・静かに読書を楽しむスペースと本を読みながら交流ができるスペースを並立してほしい。

教育長 今後の施設のあり方として、瑞浪市単独で全ての施設をまかなうのではなく、近隣市町村の施設も利用していくという考え方になるかと思う。また駅に隣接して整備することで学生にたくさん足を運んでもらえるような施設になってほしいと考えている。

3 今度の見通しについて

(1) 第3回社会教育委員会定例会（視察）について（8/23（火））

代表 この視察で図書館の機能は見る事ができるが、公民館としての機能を見学する部分はあるか。こういった施設も将来的には求められる機能が変わってくると思うので、その辺りをどのように捉えているのか聞いてこない、図書館だけ見学して終わってしまうと懸念している。

4 その他

(1) 第4回社会教育委員会定例会の日程の変更

他の会議との都合により、令和4年10月18日（火）予定であった日程を10月20日（木）に変更する。

5 閉会の言葉